

## 『海部津島郷土研究 第二号』

サイズ：A5版      ページ数：158 ページ



永い歴史の中で育まれてきた伝統行事の過去の様式を知る上で、江戸時代に映像技術は当然ながら無いため、手がかりとなるのは書籍であり図絵や文書です。幸いにして、江戸時代、尾張藩の地誌は充実し『寛文村々覚書』、『張州雑誌』、『尾張徇行記』『尾張名所図会』などがあります。地誌には、自然・地形・気候・人口・交通・産業・歴史・文化の諸要素が含まれています。これらを基にしたテーマ別・要素別の郷土研究は今後とも重要です。一方、市町村史の資料編などに収録されている文書や、未整理の旧家所蔵の文書類に基づく研究も、郷土を深く知るために増々重要になってきています。

地誌類・文書などの研究から得られた知見を現代に生かすこと、現代の実践を未来に生かすこと、この二つが郷土研究の趣旨です。皆さまのご支援により、海部津島郷土研究第二号を刊行できました。本書が地域の役に立てば幸いです。

### 構成

- |   |        |
|---|--------|
| 1 近世後期尾張藩における村落指導者層の動向                          | 石田泰弘 著 |
| 2 織豊期津島社における牛頭天王信仰について<br>領主との関係、「津島社勸進帳」より読み解く | 羽柴亜弥 著 |
| 3 尾張津島天王祭の閏六月祭礼について                             | 黒田剛司 著 |
| 4 郷土愛を育てるふるさと学習<br>天王子ども塾の実践から                  | 浅井厚視 著 |
| 5 近代の海部地域と黎明期の津島市立図書館<br>明治大正期の津島市立図書館史         | 園田俊介 著 |

発行日：平成29年（2017）4月5日

著者：石田泰弘・羽柴亜弥・黒田剛司・浅井厚視・園田俊介

発行所：NPO 法人まちづくり津島、天王文化塾

頒価：800 円（税込） 送料：210 円